

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山陽小野田市立山口東京理科大学
設置者名	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	2	16	35	53	13	
	電気工学科	夜・通信			27	45	13	
	応用化学科	夜・通信			18	36	13	
	数理情報科学科	夜・通信			45	63	13	
	医薬工学科	夜・通信			6	24	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			51	53	19	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html の「5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画」中に掲載
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山陽小野田市立山口東京理科大学
設置者名	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページで公開 https://www.socu.ac.jp/summary/information/organization.html の「役員名簿」に掲載

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2024年4月1日～ 2026年3月31日	産学官金連携(小野田地区)、キャリア支援、学園都市構想
非常勤	株式会社役員	2024年4月1日～ 2026年3月31日	産学官金連携(山陽地区)、キャリア支援、国際交流推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山陽小野田市立山口東京理科大学
設置者名	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスの作成については、全学共通の「シラバス作成の手引き」に基づいて、教務システム(Universal Passport)でシラバス作成準備が整い次第、各担当教員がシステムで入力し作成している。また、各学科に教育点検委員会を設け、シラバスの内容の適合性の確認を行っている。 シラバスには、授業名(英文名を併記)、教員名、開講年学期、主要授業科目、単位数、学年、科目区分、単位区分、概要、達成目標、DPとの関連性、成績評価方法、使用する教科書、参考書、履修上の注意、授業計画、授業外学習、アクティブラーニングの実施状況、担当教員のオフィスアワー等が記載されている。なお、担当教員の実務経験については、概要欄に付して記載している。 シラバスは年度の切り替わり(4月1日)と共に教務システム上で公開している。また学外者においても、ゲストユーザーとしてシラバス閲覧システムにアクセスすることができる。	
授業計画書の公表方法	大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/departments/syllabus-shokai.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 達成度を評価するため、シラバスには科目ごとに達成目標・成績評価方法が明記され、それに沿って評価している。特に成績評価方法には、試験、レポート、演習・小問など各評価が成績に寄与する割合を示している。 また各学部の学修簿において、下記のとおり成績評価基準を示しており、C評価：60点以上を合格として、単位を与えている。 【成績評価基準】 S：90点～100点 A：80点～89点 B：70点～79点 C：60点～69点 D：59点以下	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績表記 S, A, B, C, D のそれぞれに対応して評価ポイント GP=4, 3, 2, 1, 0 を与え、さらに授業科目の単位数から、以下の計算式によって GPA を算出している。GPA の計算方法は学修簿に記載し、学生に周知している。

※表中の成績表記「－」は、履修登録した科目の未受験を表し GP=0 として計算される。

※表中の成績表記「N」は、編入学以前や留学中の修得科目であって成績の読替不能を表し、

大学ホームページにて公表
<https://www.socu.ac.jp/summary/release.html> 「6 学修
 の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基
 準」中の「成績評価基準／GPA 評価」に掲載

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【卒業の要件】

学部学科を卒業するためには、4年以上（薬学部は6年以上）在籍し一般科目、基

		一航	甘肅	惠明	自由	
--	--	----	----	----	----	--

学部	学科	一般 科目	基礎 科目	専門 科目	自由 科目	合計
工学部	機械工学科	22	39	63	4	128
	電気工学科	21	24	78	4	127
	応用化学科	22	22	73	7	124
	数理情報科学科	20	48	54	2	124
	医薬工学科	20	36	66	2	124
薬学部	薬学科	18	9	170	6	203

学位授与方針に基づき、卒業要件を満たした学生は教授会の議を経て卒業を認定す

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について、以下のように定め、ホームペー

工学部ディプロマ・ポリシー

1. 人間や自然、環境を配慮して問題を解決できる能力を修得している。
2. 世界の動きや文化を理解できる教養と国際的に通用する言語能力を修得している。
3. 自己理解を深め自分の考えを的確に表現する能力を修得している。
4. 情報リテラシーと情報を有効活用する能力を修得している。
5. 社会に役立つ工学を開拓できる基礎学力と専門知識を修得している。
6. 先進技術の習得と工学に応用できるデザイン能力を修得している。

薬学部ディプロマ・ポリシー

1. 薬学人としての教養と倫理観、コミュニティ愛、キーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ
 - ・「薬学をととして人々の健康を守る」という薬学人として活躍できる教養と人間性、倫理観を備えている。
 - ・自らの関係する地域社会をはじめ様々なコミュニティ（職業、学問領域など）を愛する気持ちを有している。
 - ・患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るキーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ（意欲、使命感と責任感）を備えている。
（薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：1, 2, 3, 4, 9, 10）
2. 薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力
 - ・薬学人の知識の基盤となる基礎科目（物理・化学・生物）及び情報学、統計学の、基礎知識を有している。
 - ・基礎科目等の学びで得た基礎知識を基盤として、健康・福祉・医療・創薬など様々な分野で、薬学人としてその知識・技能・応用力を発揮できる。
 - ・患者や生活者の視点に立った薬物治療方針を立てることができる。
（薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：4, 5, 6, 7）
3. 薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲
 - ・薬学の領域をはじめ様々な自然科学的または社会的現象について、解決すべき問題を発見・認識できる。
 - ・発見・認識した問題に対し、薬学的知識・技能を基盤に、その解決に向けた研究立案およびその遂行の意欲を有している。
（薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：3, 4, 5, 7）
4. 薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力
 - ・患者や生活者、他医療職種はじめ他職種に対し、自らのみならず相手の立場を理解の上、対象者に関する有益な情報を収集・発信できる。
 - ・薬学領域のみならず地域社会・国際社会で問題解決に向け、よりよい方法を探索し、その情報を発信できる。
（薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：5, 6, 7, 8, 9）

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページにて公表

<https://www.socu.ac.jp/summary/release.html> の「6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山陽小野田市立山口東京理科大学
設置者名	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.socu.ac.jp/summary/information/finance.html 「財務諸表」に掲載
収支計算書 又は損益計算書	https://www.socu.ac.jp/summary/information/finance.html 「財務諸表」に掲載
財産目録	—
事業報告書	https://www.socu.ac.jp/summary/information/plan.html 「事業報告書」に掲載
監事による 監査報告 (書)	https://www.socu.ac.jp/summary/information/finance.html 「監査報告書」に掲載

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 年度計画 対象年度: 2025 年度)
公表方法: 大学ホームページ (https://www.socu.ac.jp/summary/information/plan.html の「年度計画」)
中長期計画 (名称: 中期計画 対象年度: 2022 年度～2027 年度)
公表方法: 大学ホームページ (https://www.socu.ac.jp/summary/information/organization.html の「中期計画」)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ (https://www.socu.ac.jp/summary/assessment.html の「自己点検ポートフォリオ」) (https://www.socu.ac.jp/summary/information/plan.html の「業務実績報告書」)
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ (https://www.socu.ac.jp/summary/assessment.html の「評価報告書」)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html （「1 大学の教育研究上の目的」の「学部、大学院の教育研究上の目的」））
（概要） ・工学部 工学部は、機械工学科、電気工学科、応用化学科、数理情報科学科及び医薬工学科における教育研究を通じて、「工学」と「理学」の融合を目指した独創的かつ先進的な取り組みを行い、社会に役立つ工学を開拓できる専門及び応用知識の探求、先進技術及び工学に応用できる実験技術の教授を通じて、人間や自然・環境を意識して問題を解決できる能力、自己表現力や情報解析能力を高め、世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな科学技術者を育成する。 ・薬学部 薬学部は、「薬学をとおして人の健康を守る」という高い志と倫理観・研究心を持ち、薬剤師資格を得た優れた薬学人を養成し、もって山口県を中心とする地域に貢献することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html 「6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」）
（概要） ・工学部 1. 人間や自然、環境を配慮して問題を解決できる能力を修得している。 2. 世界の動きや文化を理解できる教養と国際的に通用する言語能力を修得している。 3. 自己理解を深め自分の考えを的確に表現する能力を修得している。 4. 情報リテラシーと情報を有効活用する能力を修得している。 5. 社会に役立つ工学を開拓できる基礎学力と専門知識を修得している。 6. 先進技術の習得と工学に応用できるデザイン能力を修得している。 ・薬学部 1. 薬学人としての教養と倫理観、コミュニティー愛、キーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ ・「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学人として活躍できる教養と人間性、倫理観を備えている。 ・自らの関係する地域社会をはじめ様々なコミュニティー（職業、学問領域など）を愛する気持ちを有している。 ・患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るキーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ（意欲、使命感と責任感）を備えている。 （薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：1, 2, 3, 4, 9, 10） 2. 薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力 ・薬学人の知識の基盤となる基礎科目（物理・化学・生物）及び情報学、統計学の、基礎知識を有している。 ・基礎科目等の学びで得た基礎知識を基盤として、健康・福祉・医療・創薬など様々な分野で、薬学人としてその知識・技能・応用力を発揮できる。

・患者や生活者の視点に立った薬物治療方針を立てることができる。 (薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：4, 5, 6, 7) 3. 薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲 ・薬学の領域をはじめ様々な自然科学的または社会的現象について、解決すべき問題を発見・認識できる。 ・発見・認識した問題に対し、薬学的知識・技能を基盤に、その解決に向けた研究立案およびその遂行の意欲を有している。 (薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：3, 4, 5, 7) 4. 薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力 ・患者や生活者、他医療職種はじめ他職種に対し、自らのみならず相手の立場を理解の上、対象者に関する有益な情報を収集・発信できる。 ・薬学領域のみならず地域社会・国際社会で問題解決に向け、よりよい方法を探索し、その情報を発信できる。 (薬学教育モデル・コア・カリキュラム 10 の資質の対応番号：5, 6, 7, 8, 9)
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html 「5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画」の「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」）
(概要) ・工学部 1. 大学の理念に基づいて各学科が定める教育目標を実現するための教育課程を編成する。 2. 高度な専門知識と応用技術を修得するとともに、人間や自然・環境を配慮した問題を解決できる能力、自己表現力や情報解析能力を修得できる体系的な教育課程を実践する。 3. 段階的な知識の修得を支援するため、一般的素養を深めるための「一般科目」、工学分野における各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、専門家としての能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。 4. 「一般科目」は、人文科学、社会科学、自然科学、健康科学、外国語等に関する科目を配置する。 5. 「基礎科目」は「基幹基礎科目」と「専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置する。「基幹基礎科目」は工学部の学生にとって必須な科目とし、「専門基礎科目」は学科ごとに特色ある「専門科目」との接続を図る。 6. 「専門科目」を通じて、工学分野における高度な専門知識と応用技術、研究方法を修得し、事象の本質的な理解を深めるとともに、工学的な応用を創造できる能力と、課題を発見し解決できる能力を身に付ける。 ・薬学部 1. 「薬学人としての教養と倫理観、地域愛、リーダーシップ」を醸成するために、以下に示す総合教育科目群を受講する。 ・幅広い教養と人命を最大限に尊重することのできる人間性豊かな人材を育むことを目的として、「一般科目」で人文科学に関する様々な科目を受講する。 ・薬学人としての基本姿勢を学ぶため、医療倫理教育やヒューマニズム教育科目を履修する。 ・地方公立大学薬学部として地域愛を高めるため、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を受講する。 ・所属するコミュニティーにおいて、薬学・健康に関わるリーダーとして活躍するために求められる、薬学的素養（意欲、使命感と責任感、知識、技能、態度）を養うための科目を履修する。 ・地方公立大学薬学部として、地元をはじめ様々なコミュニティーにおけるキーパ

ーソンとして貢献する意識を高めるために、山口県や山陽小野田市の学術文化に関する講義を提供するとともに、山口県内の病院や薬局、製薬関連企業等の見学の機会やその第一線で活躍する県内薬剤師等との意見交換の場を提供する。

2. 「薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力」を習得するために、以下に示す教育課程を年次進行で受講する。

- ・1年次では、薬学教育の基本的事項を習得するため、薬学の概略や物理・化学・生物の基礎を身につけるための科目を受講する。また、近年の薬学分野で必須の情報リテラシーや統計学の基礎科目も受講する。
- ・2年次では、1年次基礎教育を基に、薬学教育の土台となる有機化学・物理化学・生化学を中心に、講義・演習・実習を組み合わせ体系的に学ぶことができる科目を受講する。また、医療・社会健康薬学に関する基礎科目も受講する。
- ・3年次では、学修者自身が多様性をもって志望するキャリアに沿った薬学教育の中でもより専門性の高い科目を受講する。すなわち、患者情報に応じた最適な薬物治療を実施する総合医療薬学を実習と併せて集中的に学習する。また、創薬で欠かせない最新の専門知識を習得する科目を受講する。
- ・4年次では、調剤、服薬指導、チーム医療など、薬剤師としての職務に必要な知識・技能・態度を身に付けるための科目を履修する。また、5年次の実務実習に向けた薬剤師実務の能力を習得するための科目を受講するとともに、その知識と技能を確認する共用試験（CBT、OSCE）を実施する。なお、合格者のみが5年次の実務実習に参加可能である。
- ・4年次～6年次の期間、それまでに習得した基本的な知識・技能を活かして、課題発見・問題解決能力などを含む総合的薬学研究遂行能力を修得するため、卒業研究を受講する。すなわち、薬学部の各研究室に配属され、担当教員から教育指導を受けながら各自に与えられたテーマについて研究活動を継続的に行う。また、研究室内外で実施される各種セミナーや学会等に参加し学術発表を行い、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等も修得する。
- ・5年次では、病院と薬局双方の現場での薬剤師業務を通じて実践的かつ総合的な臨床薬学能力を習得すべく、病院薬局実務実習を受講する。
- ・6年次では、薬学人としての知識の総合力を高めるため、薬学教育を総括する科目を受講する。また、4年次から取り組んできた卒業研究の内容を卒業研究論文として取り纏めると共に、その成果を発表する。

3. 「薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲」を育成するために、

- ・1・3・4年次の開講科目で実施されるPBL（Problem-Based Learning）やSGD（Small Group Discussion）を含むアクティブラーニングを通じて、問題点の洗い出しや論点の整理、問題解決のためのプランニングなど、問題発見・解決能力の醸成と基本的な技能を習得する。
- ・学生実習や実務実習、卒業研究において、自身が得た経験と観察、実験・研究データから様々な原因・理由を考察し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換を経ながら問題解決の糸口を見出すための実践的な技能を取得する。更に卒業研究では、問題解決手法を自ら実践し、その結果をもとに更なる改良・改善を目指すことで、高い研究遂行意欲の醸成を図る。
- ・収集情報の的確な整理・分析に極めて重要な統計学関連の講義を受講する。

4. 「薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力」を習得するために、

- ・医療機関の他職種連携・協力（チーム医療）においてそれぞれの立場を理解し、薬剤師として積極的に参画することで地域医療に大きく貢献する意識を醸成する科目を受講する。
- ・幅広い教養と薬学人としての基本姿勢を学ぶために、1年次開講科目でスモールグループディスカッションを積極的に実施し、コミュニケーション能力やプレゼ

ンテーション能力の意識づけと基本的な技能を習得する。 ・学生実習や実務実習、卒業研究において、各実習グループ・研究グループ内でのデータ共有や考察を実施し、他のメンバーやグループなどとの様々な議論や意見交換、更には学術発表をはじめ様々な発表を経験することで、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の一層の向上を図る。 ・国際社会で必要不可欠な言語として、英語科目を提供する。また、本科目では、理解度・習熟度に応じたグループ別指導を実施するなど、第二言語である英語のきめ細かい指導により能力育成を行う。 ・薬学分野の専門英語の基礎力習得のために、科学英語を提供する。 ・卒業研究では、与えられた研究テーマや配属された研究室の研究内容に関する世界の最新研究動向について俯瞰的に捉えその詳細を理解するために、国際的な研究論文を解説する機会を提供する。更には、研究成果が国際学会や英文科学誌に投稿するに値する場合は、その発表の機会を提供する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html 「4 入学者に関する受入方針及び入学者の数 / 収容定員及び在学する学生の数」の「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」）
（概要） ・工学部 【求める学生像】 1. 大学の理念を十分理解している人を求めます。 2. 高等学校教育課程若しくは同等の学習内容を修了し、工学に関する基礎的並びに専門的知識を身に付ける上で十分な学力を有している人を求めます。 3. 工学の本質に迫る深い専門知識と工学的な応用を創造できる力の修得を目指し、地域産業界の中核で活躍する人材（キーパーソン）として活躍したいと希う人を求めます。 4. 科学技術を通して社会に貢献できる人材を育成するという本学の理念を理解し、科学技術者にふさわしい独創性、思考力、積極性、行動力を備えた将来性のある人材を求めます。 【入学者選抜の基本方針】 山陽小野田市立山口東京理科大学の教育理念及び各学部学科のアドミッション・ポリシーに基づき、本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、学力の三要素をふまえて評価する入試を実施します。 入試ごとに学力の三要素の中で重視する部分を設定して多様な入試を適切な方法で実施し、多面的・総合的かつ公正に選抜します。 一般選抜 高等学校で履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、本学での学修に適合する知識・技能を重視し、教科試験を中心として学力を測る個別学力検査を行い審査します。 学校推薦型選抜 学部・学科が求める基礎学力については、基礎学力判定で評価し、出願書類と面接を用いて、知識・技能を測るとともに、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを評価し、総合的に審査します。 総合型選抜 高等学校での履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、出願書類と面接を用いて、知識・技能、思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度・協働性などを評価し、総合的に審査します。

その他の選抜では、多様な背景を持つ人材をそれぞれの特性に基づいて評価し、審査する入試を実施します。

求める能力、入学者選抜における重点評価項目

◎特に重視して評価 ○重視して評価

試験種別	試験科目	基礎学力	「学力の3要素」による視点		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性
一般選抜	大学入学共通テスト	◎		○	
	個別学力検査	○	◎	○	
学校推薦型選抜	出願書類		○	○	○
	基礎学力判定	◎	○		
	面接		○	◎	○
総合型選抜	大学入学共通テスト	◎		○	
	出願書類		○	○	◎
	面接		○	◎	○

・薬学部

【求める学生像】

「薬学をとおして人々の健康を守る」という志のもと、大学の基本理念を十分に理解し、高等学校等における学習を通じて、次のような資質・能力を持つ人を求めます。

- ① 「薬学をとおして人の健康を守る」という高い志と研究心・倫理観の習得を目指し、山口県地域をはじめ国内・国外に関わらず自らの関係する様々なコミュニティ（職業、学問領域など）で活躍したいと願う人を求めます。
- ② 高等学校教育課程もしくは同等の学習内容を修了し、薬学に関する基礎的及び専門的知識を身に付ける上で十分な学力を有している人を求めます。
- ③ 薬剤師養成の学部であることに鑑み、薬剤師としての活動に意欲を持ち、将来的に薬学人として医療・創薬・公共福祉など様々な分野で研究心を持った問題発見・解決できる薬剤師として生涯を通して成長・活躍したいと願う人を求めます。
- ④ 関係する周囲の人々との円滑な意見交換や意思疎通などを図るために必要な、基本的なコミュニケーション能力を有する人を求めます。

【入学者選抜の基本方針】

山陽小野田市立山口東京理科大学の教育理念及び各学部学科のアドミッション・ポリシーに基づき、本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性などを備えた入学者を受け入れるために、学力の三要素をふまえて評価する入試を実施します。

入試ごとに学力の三要素の中で重視する部分を設定して多様な入試を適切な方法で実施し、多面的・総合的かつ公正に選抜します。

一般選抜

高等学校で履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、本学での学修に適合する知識・技能を重視し、教科試験を中心として学力を測る個別学力検査を行い、総合的に審査します。

学校推薦型選抜

学部・学科が求める基礎学力については、基礎学力判定で評価し、出願書類と面接を用いて、知識・技能を測るとともに、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度・協働性などを評価し、総合的に審査します。

総合型選抜

高等学校での履修した教科の幅広い基礎学力を大学入学共通テストで評価するとともに、出願書類と面接を用いて、知識・技能、思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度・協働性などを評価し、総合的に審査します。

その他の選抜では、多様な背景を持つ人材をそれぞれの特性に基づいて評価し、審査する入試を実施します。

求める能力、入学者選抜における重点評価項目

◎特に重視して評価 ○重視して評価

試験種別	試験科目	基礎 学力	「学力の3要素」による視点		
			知識 ・ 技能	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性
一般選抜	大学入学共通テスト	◎		○	
	個別学力検査	○	◎	○	
学校推薦型選抜	出願書類		○	○	○
	基礎学力判定	◎	○		
	面接		○	◎	○
総合型選抜	大学入学共通テスト	◎		○	
	出願書類		○	○	◎
	面接		○	◎	○

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.socu.ac.jp/summary/release.html>

「2 教育研究上の基本組織」

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
工学部	－	28 人	10 人	9 人	6 人	0 人	53 人
薬学部	－	18 人	9 人	8 人	7 人	0 人	42 人
共通教育センター	－	7 人	7 人	4 人	0 人	0 人	18 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		31 人					31 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ（研究者データベース） https://unipa.socu.ac.jp/kg/japanese/index.html					
c. F D （ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD に関しては FD 委員会を設置し、FD に関する事項を企画・運営している。以下に FD 活動の事例を記載。 1. 授業観察 本学に新規に採用された教員に対して、FD 委員が授業に出向き教授方法等を観察し、改善点等があれば指導する。 2. 研究授業 教員相互の授業観察結果と学生による授業評価が高い授業を半期毎に選定し、教員が講義を参観するとともに、授業担当教員と参観教員との意見交換とワークショップを行い、優れた教授法や教授技能を教員間で共有している。 3. FD セミナーの開催 研究と教員の調和を図り、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の一環として、外部講師による FD セミナーを毎年度開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	300 人	331 人	110%	1200 人	1168 人	97%	-人	3 人
薬学部	120 人	119 人	99%	720 人	721 人	100%	-人	-人
合計	420 人	450 人	107%	1920 人	1889 人	98%	-人	3 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	178 人 (100%)	52 人 (29.2%)	123 人 (69.1%)	3 人 (1.7%)
薬学部	123 人 (100%)	6 人 (4.9%)	105 人 (85.4%)	12 人 (9.7%)
合計	301 人 (100%)	58 人 (19.3%)	228 人 (75.7%)	15 人 (9.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 山陽小野田市立山口東京理科大学大学院、九州大学大学院、長州産業(株)、(株)長府製作所、UBE マシナリー(株)、関西電力(株)、総合メディカル(株)、アイングループ、日本調剤(株)、ウエルシア薬局(株)、エーザイ(株)、協和キリン(株)、塩野義製薬(株)、久光製薬(株)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	215 人 (100%)	152 人 (70.7%)	39 人 (18.1%)	22 人 (10.2%)	2 人 (0.9%)
薬学部	145 人 (100%)	123 人 (84.8%)	17 人 (11.7%)	5 人 (3.4%)	0 人 (0%)
合計	360 人 (100%)	275 人 (76.4%)	56 人 (15.6%)	27 人 (7.5%)	2 人 (0.6%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) シラバスの作成については、全学共通の「シラバス作成の手引き」に基づいて、教務システム (Universal Passport) でシラバス作成準備が整い次第、各担当教員がシステムで入力し作成している。また、各学科に教育点検委員会を設け、シラバスの内容の適合性の確認を行っている。 シラバスには、授業名 (英文名を併記)、教員名、開講年学期、主要授業科目、単位数、学年、科目区分、単位区分、概要、達成目標、DP との関連性、成績評価方法、使用する教科書、参考書、履修上の注意、授業計画、授業外学習、アクティブラーニングの実施状況、担当教員のオフィスアワー等が記載されている。なお、担当教員の実務経験については、概要欄に付して記載している。 シラバスは年度の切り替わり (4 月 1 日) と共に教務システム上で公開している。また学外者においても、ゲストユーザーとしてシラバス閲覧システムにアクセスすることができる。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 達成度を評価するため、シラバスには科目ごとに達成目標・成績評価方法が明記され、それに沿って評価している。特に成績評価方法には、試験、レポート、演習・小問など各評価が成績に寄与する割合を示し、達成度の水準を5段階(S, A, B, C, D)で判定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	128 単位	有・無	46 単位
	電気工学科	127 単位	有・無	46 単位
	応用化学科	124 単位	有・無	46 単位
	数理情報科学科	124 単位	有・無	46 単位
	医薬工学科	124 単位	有・無	46 単位
薬学部	薬学科	203 単位	有・無	50 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.socu.ac.jp/summary/release.html 「6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準」の「成績評価基準/GPA 評価」		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページにて公表 【表彰】 https://www.socu.ac.jp/campuslife/commendation.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ (https://www.socu.ac.jp/campus-life/campusmap/index.html の「キャンパスマップ」) 大学案内：大学で配布、又は大学ホームページでダウンロード (https://www.socu.ac.jp/summary/pamphlet.html)
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
工学部	機械工学科	535,800 円	282,000 円 (市内在住者は 141,000 円)		
	電気工学科				
	応用化学科				
	数理情報科学科				
	医薬工学科				
薬学部	薬学科			50,000 円／年	その他：薬学実務実習費 (令和4年度以降入学者)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. チューター制度 学生一人ひとりに担当教員（チューター）を設け、学習・生活指導を行う。1対1の個別指導のため、学生が作成する履修計画表の点検とアドバイスを行うなど、細やかに対応する制度を導入している。 2. 学習サポート教室 数学や物理、化学といった基礎科目の学びを、個々のレベルに合わせてサポートを行う。授業で十分理解できなかったことがあるといった相談に、アドバイザー（学生に年齢が近い助教）が丁寧に対応する制度を導入している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 工学部では1～2年の低学年時から正規授業に「キャリア形成科目」を設け、目的意識を養成している。 また、3年時には「職業教育」において就職活動のための準備の科目を設けている。 【就職支援対策】 1. 学内合同企業説明会 学内で企業説明会を学部毎に年2回開催（令和6年度は工学部156社、薬学部108社招聘）し、一度に複数の企業と接触できる機会を設けている。 2. 公務員試験対策講座 一般常識、SPI、教養科目対策を行うことで、民間企業就職と公務員受験の両方に対応できる講座を設けている。 3. 進路相談 キャリア支援センターにキャリアコンサルタントやジョブサポーターを配置して、就職の事だけでなく、自分の将来や仕事のことにに関する相談のほか、保護者の疑問・質問にも丁寧に対応している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1. 保健管理センター

月～金曜日 9 時～17 時に保健師 1 名、看護師 1 名が在中し健康相談や創傷応急対応をしている。

2. 学生相談室

月～金曜日 9 時～18 時の週 5 日を開室しており、5 名の公認心理士（臨床心理士）が交代で開室している。心理的カウンセリング及び障害学生支援を行い、大学生活で困っていること等の心の面のサポート及び障害や特性により生じた修学・学生生活等において必要な支援を行っている。

なお、学生特別支援窓口を設け、障害等が理由で修学支援を希望する学生の相談窓口を設置し、速やかに学生相談室への橋渡しを行っている。

3. こころとからだの健康調査

在学生全員に対して健康診断時に「UPI（こころとからだの健康状態を把握するためのアンケート）」を実施し、心身に問題のある学生の早期発見、早期治療に努め、発覚した場合は公認心理士が即時に面談等を行っている。

4. 24 時間相談できる外部相談窓口を設置し、休日及び夜間の対応を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ

(<https://www.socu.ac.jp/summary/release.html>)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F135210110089
学校名（〇〇大学 等）	山陽小野田市立山口東京理科大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		172人（－）人	179人（14）人	197人（14）人
内 訳	第Ⅰ区分	88人	94人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	48人	43人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	－	28人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	14人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				197人（14）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	19人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-	人	人
計	20人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。